

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00965

研究課題名（和文）西国の城下町域における労働社会の研究

研究課題名（英文）A Study of Labor Society in the Castle Town Area of Saigoku

研究代表者

森下 徹（Morisita, Toru）

山口大学・教育学部・教授

研究者番号：90263748

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：城下近郊農村に視点を絞り、城下町とあわせた地域を「城下町域」として設定、そこを舞台にした労働社会のあり方を解明した。近郊農村には城下町と結びつき、それを支える独自の機能があったと考えられるからである。三都のような巨大都市ではなく、中規模城下町において有効な方法となしうるし、近年の地域社会論へ波及も期待できる。

とりあげたのは西国の城下町、岡山、萩などでありそれぞれ在地社会との関係性のなかで労働社会のあり方を考察した。また比較のために、大坂でのあり方についても検討を加えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

急速な社会の変貌にともなって、地域社会の歴史を全体として再現するという関心から地域史研究は近年盛んなわけだが、そこでは都市社会、在地社会、それぞれ別個に進められているのが現状である。それに対して、城下町と周辺農村を対象を絞ることで、都市と農村の双方を視野に入れた地域社会論の提起とすることができた。

あわせて、岡山県立記録資料館蔵の未整理史料の目録化も実施し、社会的な貢献も果たすことができた。

研究成果の概要（英文）：This study elucidated the state of the labor society in the farming villages in the suburbs of the castles in Edo period. Those villages are included in “castle town area” together with castle town itself. This is because the surrounding farming villages were connected to the castle town and had a unique role in sustaining the town. The methodology of this study can be applied to the studies of medium-sized castle towns in Edo period. The result of this research can contribute to the recent sociology of local community.

This study, focusing on the castle towns in Saigoku such as Okayama and Hagi, examined the state of labor society in the relations within the local communities. The research on the contemporary state of Osaka is also done for the comparison with those in Saigoku area.

研究分野：日本近世史

キーワード：城下町

1. 研究開始当初の背景

80年代以降急速に進んだ都市史研究は、都市の雇用労働の問題（「日用」層）にあらたな光を当て、身分的周縁の方法ともあいまって、その解明は近年急速に進んできた。他方で、かつての賃労働形成史論を振り返ると、もっぱら農村での雇用労働の析出過程が問われ、家や村との関係が問題視されていた。都市の労働社会の様相が多面的に明らかになっている段階で、あらためて析出母体でもある農村社会の側から、家や共同体との関係においてとらえることが求められている。そのことは、産業革命期の賃労働が、家を基盤とした同職集団型や生計補充型からなるとする議論との接続を可能にすることにもなる。労働の問題は、今日ますます関心を集める現代的な関心に違いない。日本社会に固有なあり方を、賃労働の形成よりさらにさかのぼった地点から解明しようとする近世の労働史研究の前進に資するものといえる。

2. 研究の目的

農村一般ではなく、城下近郊農村に視点を絞り、城下町とあわせた地域を「城下町域」として設定、そこを舞台にして労働社会のあり方の解明をめざした。近郊農村には城下町と結びつき、それを支える独自の機能があったと考えられるからである。このことは三都のような巨大都市ではなく、中規模城下町において有効な方法となろう。同時にこのことは、近年の地域社会論への波及も期待できるものである。急速な社会の変貌にともなって、地域社会の歴史を全体として再現するという関心から地域史研究は近年盛んなわけだが、そこでは都市社会、在地社会、それぞれ別個に進められているのが現状である。それに対して、城下町と周辺農村を対象を絞ることで、都市と農村の双方を視野に入れた地域社会論の提起ともなるものである。

あわせて岡山県立記録資料館蔵の未整理史料の目録化を進めることで、社会的な貢献も果たすことをめざした。

3. 研究の方法

これまでの研究によって独自の労働社会の展開がわかっている西国の城下町をとりあげ、そこと接してある近郊地域の社会構造を解明する。そのうえで雇用労働の析出や流入のようす、それらが織りなす社会関係、周旋業者の発達の度合いなど、労働社会のあり方を考察し、そのことをもって「城下町域」という地域社会のなかに労働社会を位置付けようとした。

対象として、一定の領国規模をもち、「城下町域」の固有性を摘出しやすい藩として岡山藩を選び、城下と近郊農村をとりあげた。すでにこの藩の奉公人徴発を事実上支えたのが近郊農村だったことは明らかにしているので、奉公人を析出する在地社会の動向を解明することとした。なおそれにかかわって、岡山県記録資料館に上道郡口分の大庄屋史料小西家文書が未整理状態で保管されているので、その整理作業にもあたることとした。

また同様な条件にある津山藩やより小規模で、領国も散在している徳山藩も対象に選定した。

そのほか、三都や各地の城下町についても比較のために可能な範囲で分析対象に加えることとした。

4. 研究成果

まず岡山城下と近郊農村に関しては、岡山県記録資料館蔵小西家文書を整理し目録を作成した。現在同館で仮目録として公開されている。主な内容な岡山城下近郊、上道郡口分の主として幕末期における大庄屋業務に関する帳簿類であり、かつ同家が所属する海面村をはじめ越庄屋として勤めたいくつかの村文書も含まれている。

そしてこの史料群に加えて、岡山市立図書館蔵の大庄屋史料を調査し、同郡から岡山への奉公人抛出状況を検討した。それによって在方奉公や町方奉公に比して武家奉公の比重が断然多いという特質を見出すとともに、水損の多い不安定な生産条件との相関関係があったことを解明した。近郊農村がとくに武家奉公人の主要な供給地であることはすでに明らかにしていたが、そのことを在地の側の条件と抱きあわせにして意味づけた。

あわせて、岡山城下の町方社会の動向についても検討を加えた。岡山市立図書館蔵国富文庫には大年寄の職務に関する史料が多く含まれており、城下のうち一定の範囲にある町の社会構造と在地からの流入状況の分析を行うことができた。

次に岡山藩と同規模な領国藩として萩藩を選び、萩城下と農村社会の関係を考察した。

一つには、萩藩が国産政策として始めた萩藍産を解明した。そこでの藍玉生産は、近郊農村で生産された葉藍を原料にするものだった。ただしこの政策は、上質の阿波藍との競合のもとで実施されたものであり、品質のうえでそれに叶うものではなかった。ために領内の紺屋にとってみれば品質の劣る「御国藍」を強制的に買わされることを意味したし、一方で葉藍生産者は市場価格よりも安く買いたたかれるものであった。このように、無理を押しして実施された藍の専売政策は、やがて後退せざるをえなくなっていた。

二つ目に、萩の都市下層に生きた女性労働についても検討を加えた。在地の家を離れ、単身で萩城下に流入してきた女性たちが、城下町には暮らしていた。生存のための稼ぎの場として武家

や商家などでの奉公稼ぎがあり、とくに武家では家内労働の担い手として不可欠のものだった。その供給のしくみをみると、往々にして同郷のよしみという地縁や、血縁によるものが多かった。いかにいえば江戸のような専門業者が必ずしも成長していたようにはみえない。また城下に借家するばあいは、女性同士のつながりによることが多くあり、洗濯などのほか、「取売」とよばれる質物を扱う職業に従事することもみられた。ただしそれらの縁を失うと、たちまち零落するしかなく、ときにはだまされて赤間関などへ遊女として売られてしまうこともあった。総じて、男性単身者が「日用」層として都市に定着していたのと、相似的な関係を女性単身者は形成していた様相を解明した。

萩藩領の三つ目として、瀬戸内側小郡宰判における社会構造も検討した。勘場がある小郡を中核とする地域であるが、港町ばかりでなく、綿織物業であるとか塩業の発展は、宰判内に小都市域というべきものを随所に形成していた。それらと農家の小経営とが結びついたところに在地における都市的な発展の特徴をみてとることができた。

さらに萩藩の支藩である周防徳山藩については、徳山町や近隣の町方関係の史料を収集し、領国が散在するとともに、小規模な町方が連続してある特徴を有する地域の社会構造分析を進めた。

またコロナ感染症の流行もあって遠隔地での史料調査活動が制約されるなか、山口市歴史民俗資料館に山口や萩、およびその周辺農村部の史料群が種々保存されていることを知った。それらは多くが未整理なので、同館とも協議して資料整理作業に着手した。山口の町家であり近郊農村との関係史料も含む蔵重家、山口の鍛冶頭だった世良家、山口の町家だった萬代家などを整理し、目録化した。山口と近郊農村との関係を今後分析するための足掛かりとすることができた。

この他、津山と近郊農村との関係も当初は研究対象に指定していたものの、津山市郷土資料館の改修やコロナ感染症の流行もあって、十分な調査活動を進めることはできなかった。

これら西国の「城下町域」と比較するため、大坂の労働社会の検討も進めた。すなわち近世大坂における運輸労働の担い手の一つ、仲仕の分析である。主に堀川で川船を使って搬送される物資を蔵まで運び入れる、もしくは運び出す労働に従事するものだった。特徴的なことは、荷役の権利を独占しようと、仲間を形成していたことである。一つには堀川沿いに多数あった浜における浜仲仕があり、荷役を独占するとともに仲間以外のものの水揚げ行為には金銭の支払を上納するなどした。また蔵屋敷でも、蔵屋敷ごとに蔵物の搬送・搬出を担う仲仕仲間があったし、それと関係した堂島米仲買配下の仲仕組織もあった。これらは刺米を利権化するものだった。そうした浜仲仕にせよ蔵仲仕にせよ、地位を利権と結びつけ株化していた。ただし、公儀から何等か公認された身分集団というものではなかった。身分社会の周縁部に、地位を相互に認知しあい独占する独自の秩序を発達させていたことになる。こうしたことは、蔵米をはじめ大量の物資が集積し、多数の荷役労働が求められた大坂ならではの事態だと考えることができる。

また和泉に陣屋をおく小藩における武家奉公人の調達をめぐる著書の検討もおこなった。そして、供給源として陣屋町近郊の農村があったことを確認できるとともに、その農村社会の動向から調達の推移を見通すことの重要性をあらためて指摘した。ただし同時に、奉公人市場の動向への目配りも必要であろうことも述べた。さらに陣屋町が所在する村だけでなく、そこに接する村も奉公人供給源としては一体であることが注目できるともした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 森下 徹	4. 巻 235
2. 論文標題 萩城下の民衆世界における女性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 281-295
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下徹	4. 巻 244
2. 論文標題 武家奉公人の立場から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 28-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下徹	4. 巻 32
2. 論文標題 萩藩の藍専売と阿州藍売	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鳴門史学	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 瀬戸内一丸尾崎港の開発
3. 学会等名 身分と地域研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 武家奉公人と地域研究の立場から
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 岩国藩大坂蔵屋敷の設置と都市社会
3. 学会等名 上海国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 岩国藩大坂蔵屋敷の成立
3. 学会等名 イェール-OCUジョイントセミナー（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 塚田孝（編者）、森下 徹（分担執筆）、他21名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 416
3. 書名 社会集団史	

1. 著者名 松尾美恵子・藤實久美子・浅倉有子・浅利尚民・石上裕之・岩淵令治・上野秀治・大友一雄・岡崎寛徳・小澤弘・後藤宏樹・小宮山敏和・斉藤進・渋谷葉子・白根孝胤・高田綾子・高橋喜子・武内恵美子・田原昇・千葉一大・森下 徹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 椋風舎	5. 総ページ数 777
3. 書名 大名の江戸暮らし事典	

1. 著者名 吉田伸之・森下徹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 196
3. 書名 全体史へ《山口啓二の仕事》	

1. 著者名 森下徹、塚田孝(編者)、大澤研一、齊藤紘子、植松清志、島崎未央、北野智也、羽田真也、飯田直樹、佐賀朝、屋久健二、山崎竜洋、吉元加奈美、三田智子、神田由築	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 シリーズ三都 大坂巻	

1. 著者名 森下徹、塚田孝(編者)、馬強学(編者)、範金民、吉田伸之、王振忠、王剛、杉森哲也、町田哲、王健、叶舟、佐賀朝、後藤雅知、三田智子、張智慧、吉元加奈美、胡瑞、田坪賢人、李東鵬、井上徹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 商務印書館	5. 総ページ数 471
3. 書名 中日城市史研究論集	

1. 著者名 都市史学会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 688
3. 書名 日本都市史・建築史事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------